会員近況

南山大学
経営学部経営学科　沢木　勝茂

今年の夏は忙しかった．とくに今夏は SSOR の事務局を引受けて，その準備や運営の過程でいろいろと勉強させていただいた．寝泊りをともにする3食付のサマー・セミナーであるので，学会の春秋研究発表会とは違った形式と趣向を出すことに留意しなければならなかった．三河湾を望む三ケ根山の山頂のホテルでロケーションに恵まれていたので，会場に関しては出席者に満足していただけたのではないかと秘かに思っている次第です．

大学では数量分析法という講義名でORをやさしく教えるという主旨の授業をしている．研究はDPとマルコフ決定過程とその応用に関心をもっており，今はDPの構造的研究と不確実性下のマルコフ決定過程の理論的研究に携わっている．今夏，英国マンチェスター大学でのマルコフ決定過程に関する国際会議に出席したが，昨年ブリティシュ・コロンビア大学で開かれた国際DP会議につぐこの分野の2回目の国際会議であった．DPとマルコフ決定過程論における将来の研究方向といったものを見定めるうえで，多くの示唆を得たことは大変幸いなことであった．

神戸商科大学
経済研究所　辻　新六

健康をそこね，ほぼ2年間入退院を繰り返していましたが，最近になりやっと体力にも自信がつき，仕事にも力を入れられるようになりました．入院中はもっぱら専門とは関係のない雑学ばかりしていましたが，さて雑学というものは，本来の研究にどれほど役立つものでしょうか．こんな疑問をもっていたところ，「インターディシプリナリー（学際的）ということは，一つの学問の専門ばかと他の専門ばかが協力することではない．ある学問で一人前の域に達した人がもう一度他の学問を初歩からやりなおす．そういうトレーニングがあってはじめてインターディシプリナリーが可能になる」という小室直樹氏の言葉にぶつかりました．あっちこっちと興味の向くまま研究対象を広げ，そこから学際的研究も生れ，雑学も役に立つと考えていた自分にとっては，身の細くなる言葉です．まずは専門ばかになれ，そうすればおのずから雑学が雑学で終らずに自分の研究の身となり肉となるのでしょう．病気を機会にこんなことを考える近頃です．

トヨタ自動車工業
生産管理部資材管理課長　木村　修

（仕事の経歴）

入社以来，生産管理情報システムの設計，工場立地計画立案，将来の交通システム研究，などの担当を経て，現在は，自動車用資材，機械部品，工具などの在庫管理およびトヨタ生産方式，とくにかんばん方式のシステム論的体系化の仕事に従事している．

（ORに関する意見）

OR誌や，学会発表の論文を拝見していると，最近とみに，現実遊離の高等数学が幅を効かしているように思う．優雅な解法を追求するに急なあまり，大胆というよりは，乱暴な仮定や省略が多過ぎる．あるいは政策変数と環境変数の取り違えが目立つ．たとえば，コストミニマムを求める際，単価や原単位をまず小さくすることが重要であるのに，これらを所与の前提として解を求めてみても，現実には何の役にも立たない．確率的モデルにおける分散の取り扱いもまた然りである．

OR学会が数学応用問題解法研究会であるならいたし方ないが，オペレーションズ・リサーチつまり作戦研究が本来の目的とすれば，学会の現状は必ずしも満足なものとは言い難いように思われる．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．